

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670100078		
法人名	社会福祉法人 七野会		
事業所名	グループホーム はつね		
所在地	京都府京都市北区小山初音町24 カマラーダ・ドーム1F (電話) 075-494-3022		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年7月7日	評価確定日	平成20年8月13日

## 【情報提供票より】(平成20年年 7月10日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 11 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.9 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	地下1階付き3階建ての 地下1階 ~ 地下1階部分		

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	22500円(月30日として計算)
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 600,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4)利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	上京病院、かも川診療所
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市北区に商店が建ち並ぶ道路沿いにある3階建てのマンションの1階部分が当該ホームです。マンションの建築段階から、1階をグループホームにと考えられており、家庭的な雰囲気や地域の中での暮らしを意識し開設されました。当初から「その人らしく、地域と共に」という理念を掲げ、近隣で買い物をして顔見知りになったり、地蔵盆や運動会などの地域の活動も積極的に参加し、地域とのつながりを大切にしています。また、入居者一人ひとりの生活歴や習慣、ADL状況、思いを知り、その人らしく暮らせるように支援しています。更に、年に1度の旅行も恒例になっており、入居者も楽しみなものになっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、区役所との連携に取組み運営推進会議の報告を直接持っていったり、事業報告をしながら、担当職員に相談できる関係を構築されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、職員に白紙の自己評価表を配り、それぞれに記入してもらい、管理者がまとめたものを会議で話し合い、改善計画を立て取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、町内会会長、民生委員、包括支援センターの職員をメンバーに2ヶ月に1度開催しています。ホームの活動や近況報告、参加者からの地域の行事の案内などが主な議題になっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの季刊誌「ただいま」を年に3~4回発行し、ホームの行事や様子を伝えていきます。また、面会時にコミュニケーションをとったり、家族ノートを作っている入居者もあり、積極的に家族にホームでの暮らしぶりを伝え、また家族の思いや要望を聞いています。また、個々の要望に対してホームのできることをサービスに反映しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	マンションの管理組合、町内会に加入し、バザーや地蔵盆、運動会の参加等地域の行事に参加しています。また、日常的にも回覧板を回す際に世間話をしたり、買い物先の店員と顔なじみになったり、近所付き合いができています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1階をグループホームにと建てられたマンションにあり、1つの家として地域の中で暮らしていくことを支えることをホーム開設時から意識しています。開設時に「その人らしく 地域と共に」という事業所独自の理念を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのリビングには、入居者が毛筆で書かれた理念を掲示し、いつでも誰でも見て意識できるようにしています。また、受け継がれてきた理念を暮らしの中で実現するために、地域での活動に参加し、その人らしい暮らしを会議でも話し合いながら支援しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	マンションの管理組合、町内会に加入し、バザーや地藏盆、運動会の参加等地域の行事に参加しています。また、日常的にも回覧板を回す際に世間話をしたり、買い物先の店員と顔なじみになったり、近所付き合いができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、区役所との連携に取組み運営推進会議の報告を直接持っていったり、事業報告をしながら、担当職員に相談できる関係ができてきました。今回は、職員に白紙の自己評価表を配り、それぞれに記入してもらい、管理者がまとめたものを会議で話し合い、改善計画を立て取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会会長、民生委員、包括支援センターの職員をメンバーに2ヶ月に1度開催しています。ホームの活動や近況報告、参加者からの地域の行事の案内などが主な議題になっています。報告等が多く、議論する内容が少ない状況になっています。	○	地域の行事に誘ってもらい参加するばかりではなく、地域の住人にホームに来てもらったり、今以上にホームを知ってもらい、協力が得られるような取組み等が期待されます。地域住人との交流や認知症介護相談の場の提供、防災訓練の協力など話し合われてははいかがでしょうか。

グループホームはつね

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の結果や事業報告の際には、直接区役所に行き報告しています。担当者とも事故報告をきっかけにアドバイスをもらえたり、ホームへ来訪予定もあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を入れながら複数の職員の手で作られたホームの季刊誌「ただいま」を年に3～4回発行し、ホームの行事や様子を伝えています。また、毎月預かり金の収支を書き、金銭管理の報告と共に、その用紙の最後に通信欄を作り、個々の過ごしている様子を伝えています。面会時にコミュニケーションをとったり、家族ノートを作っている入居者もあり、積極的に家族にホームでの暮らしぶりを伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を明記し、ホームには意見箱を設置しています。面会時に直接コミュニケーションをとりながら、家族の思いや要望を聴いています。また、家族ノートのやり取りがある方からは、その中で聞く機会ができています。実際には、個々の要望に対してホームのできることをサービスに反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は少なく馴染みの関係を築いています。管理者による職員のヒアリングは、年に1回以上行っていますが、職員同士の懇親会の機会が少ないため、職員同士の和を深めるために懇親会を企画中です。また、離職などで馴染みの職員がいなくなったときには、残った職員で入居者との関わりをより深く持ち、ダメージの少ないようケアしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任から3年目まで定期的な研修が行われたり、中堅研修や管理者研修など段階に応じた研修を行っています。また、グループホーム協会の研修などの外部研修を受け、研修報告書や会議で伝達研修を行い、他の職員にも内容を伝えています。職員が順番で教え合うような勉強会を、ホーム内でも行って行きたいと考えています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度グループホーム協会の会合があり、他法人の同業者との交流があります。また、法人のグループホームが3件あり、年に3回会議を開催し、満足度アンケートや宿泊研修などの取り組みについて話し合われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	3年間ほど新しい入居者はいませんが、入居前に見学や体験入居が可能です。入居前の生活の情報を得るために、自宅を訪問し家族から話を聞いたり、担当の介護支援専門員や利用していた通所介護からも情報提供してもらっています。その情報を基にし、馴染みやよい環境作りを心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の入居者の生活歴を基に、人生の先輩として得意な家事のことや、四季の行事のしきたりなどを教えてもらいながら、一緒に生活をする姿勢を持ち、信頼関係が築ける様に努力し、日々支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	2年前からセンター方式を用いてアセスメントをしています。日々のコミュニケーションの中から、本人の意向や思いをくみ取るよう心がけ、介護計画を立てたり、見直したりする際には、担当者会議で本人本位に検討しています。センター方式の見直しや追加が十分ではありません。	○	センター方式のシートの中でも、できることやしたいこと、24時間の過ごし方など、個々の思いが特に現れるシートの内容を定期的に見直してはいかがでしょうか。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議が、看護師や家族、計画作成担当者、職員等をメンバーに開催され、かかりつけ医からのアドバイスをもらい、利用者本位の介護計画が立てられるよう話し合われています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの定期的に介護計画を見直しています。短期目標に向けては、1ヶ月の期間で設定してモニタリングを行っています。また、状況の変化に応じた見直しも行っていきます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院の送迎や専門医院の通院同行など、入居者の生活に合わせた支援を行っています。日常生活の中でも、希望に合わせ買い物に行ったり、ファミリーレストランやファーストフードに立ち寄ったり、柔軟な対応を心がけています。また、個別外出で南座に芝居を見に行ったり、年に1度の1泊旅行など外出支援にも力を入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明をしかかりつけ医を決めています。かかりつけ医との連携がきており、看護師と24時間連絡がとれる体制があります。往診日を家族に伝えたり、掲示することで、家族がその日に合わせ来訪し、直接医師とコミュニケーションがとれるように配慮しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期の意向を家族に聞き、ホームでの対応として、重度化・看取りの指針をもって説明し、同意を得ています。希望があれば、意向にそった支援が出来るように、職員全員が思いを共有し、ホームでも勉強会を開いたり、デイサービスの看護師の協力を得ることもできます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いは、馴れ馴れしくなり過ぎないように、職員同士でも注意し合いながら、心がけています。また、個人情報、鍵付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースでの生活パターンがあり、それに合わせた支援をしています。そして、その日に行きたい所ややりたいことに合わせても支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物に行っているほか、食材を切ったり、食器洗いなどできることを行い、役割意識を持ちながら、食事作りや後片付けが楽しみなものになっています。また、同じものを一緒に食べながら楽しく食事できるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居前の習慣や希望に合わせた時間に入浴できるよう、夕食前後から20時頃が入浴時間とし、毎日の入浴も可能になっています。拒否傾向のある人には、着替えや清拭、声のかけ方やタイミングなど工夫をしながら、個々に合わせた支援を行っています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、家事を役割としていたり、風呂上りのビールや散歩などの外出等、個々の生活習慣や生活歴を知り、楽しみごととなるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩や買い物に出かけています。散歩は近隣の公園や神社等希望に合わせて行く先を決め、車椅子でも散歩に行っており、全ての入居者が外出できています。また、希望により以前住んでいた家に様子をみに行くこともあります。また、個別で家族の協力があれば、1泊旅行を予定しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族に了解を得て、日中玄関の鍵はかけていません。入居者の行動を察知し、できる限り一緒に外出できるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の分団に来てもらい、防災訓練を行っています。昼間と夜間想定を交互に行い、マンションの住人に声をかけて参加してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームで提供した食事のメニューを、法人の管理栄養士にチェックしてもらい評価やアドバイスをもらっています。刻み食等の対応も可能ですが、現在該当する利用者はいません。食事摂取状況に合わせて食べやすい大きさに切っています。食事量や水分量は必要な方のみチェックしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉は障子の引き戸になっていたり、木目調の部分も多く、落ち着いた雰囲気があります。また、季節を感じることができる生花やタペストリーなどを飾り、更に家庭的になっています。リビングには、思い思いに過ごせる空間作りも工夫しています。手すりの設置は最小限になっており、今後入居者のADLに合わせ生活しやすいように、設置していく予定です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものの持込を家族にお願いしています。家具や仏壇、写真などを置いたり、ミシンを持ち込み使用している入居者もあり、個々の部屋らしく居心地の良い空間になっています。		